

## [課程－ 2 ]

### 審査の結果の要旨

氏名 岡田 宏子

本研究は、慢性疾患で病院施設に定期的に通院中の患者を対象に、看護師が実施するアドバンス・ケア・プランニング (Advance Care Planning: ACP) 相談支援を導入することによる患者本人への効果を確認することを目的に、65 歳以上の慢性疾患患者を対象に ACP に関する相談支援介入を受けた群と受けていない群に分けて、介入前と介入後 6 か月時点における質問紙調査を実施し、重回帰分析による介入効果の検証を試みたものである。

その結果以下のことが明らかになった。

1. 看護師による ACP 相談支援を受けた慢性疾患を持つ高齢者は、支援を受けていない者と比べて、ACP に関する知識に統計的有意差は見られなかった。
2. 看護師による ACP 相談支援を受けた慢性疾患を持つ高齢者は、支援を受けていない者と比べて、ACP 実施へのレディネスは有意に高く、自己効力感に統計的有意差は見られなかった。
3. 看護師による ACP 相談支援を受けた慢性疾患を持つ高齢者は、支援を受けていない者と比べて、予後 1 年以内の診断下での心肺蘇生を有意に希望しない方向へ意向を変更し、寝たきりの状況設定下では意思の変化に統計的有意差は見られなかった。
4. 看護師による ACP 相談支援を受けた慢性疾患を持つ高齢者は、支援を受けていない者と比べて、治療に対する満足度に統計的有意差は見られなかった。
5. 看護師による ACP 相談支援を受けた慢性疾患を持つ高齢者は、支援を受けていない者と比べて、包括的 QOL が有意に上昇した。

以上、本論文により、終末期以前の慢性疾患を持つ高齢者を対象に ACP 相談支援を導入することで、予後 1 年以内の診断下での心肺蘇生を希望しにくく、また、その後の療養生活における包括的 QOL が上昇することが示唆された。

本結果は、これまで日本人では効果が未検証であった、医療者が行う ACP 支援介入についての知見であり、終末期よりも早い段階で介入することの効果が示されたものである。このことから、日本人における人生の最終段階における医療に関する意思決定支援をより広い範囲の対象へ提供していく上で、重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。